

先進事例 紹介

消防の広域化

「安心・安全なまちづくり」を目指して

山口県 宇部・山陽小野田消防局

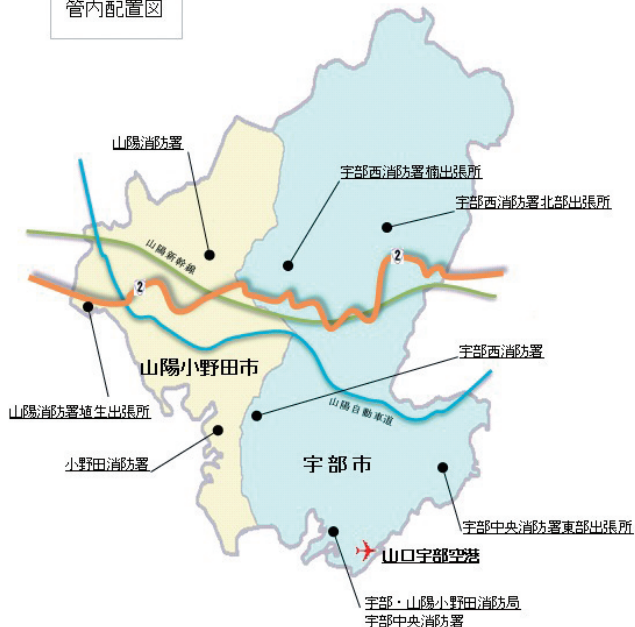
宇部・山陽小野田消防局の概要

宇部・山陽小野田消防局は、宇部市及び山陽小野田市の2市で構成され、「消防の広域化を進めるため改正された平成18年の消防組織法」の施行後、全国でも7番目（一部事務組合としては4番目）の消防広域化組織として、平成24年4月1日に消防業務の共同処理を開始しました。

管内人口約23万8,000人、面積約420km²に1本部、4署4出張所を配置し、消防車両75台、職員298人（平成25年1月1日現在）で、災害に対応しています。

地勢は、山口県の南西部に位置し、南部は瀬戸内に面した臨海工業地帯を配し宇部・小野田地区石油コンビナート等特別防災区域に指定されています。北部は森や湖に恵まれた優れた自然環境に包まれています。また、管内には山陽自動車道、JR山陽新幹線厚狭駅や山口宇部空港があるなど、高速交通網の利便性に富んでいます。

管内配置図



広域化までの経緯

山口県では、平成20年5月に県内13消防本部を4消防本部とする「山口県消防広域化推進計画」を策定しましたが、県市長会から7消防本部とする対案が示され、



管理者より消防長に局旗の授与（開庁式）



消防局、宇部中央消防署庁舎

県はこの対案を尊重するとの見解を示しました。

宇部市と山陽小野田市は、市街地や石油コンビナートが一体化し、さらに都市形態も類似しているため、効果的かつ効率的な消防体制の構築が図れると考え、県市長会が示した7消防本部案に沿い、平成21年11月に「宇部市・山陽小野田市消防広域化検討委員会」を設置し、消防の広域化について検討を開始しました。

検討の結果、2市の消防広域化は、市民にとって広域化のメリットが期待でき、また、課題解決の方針が整ったことから、2市の消防広域化に係る広域消防運営計画の作成及びこれに附随する事務を共同して行うため、平成23年1月に「宇部市・山陽小野田市消防広域化協議会」を設置し、7回の協議を行い同年10月「宇部市・山陽小野田市広域消防運営計画」を策定し、同年11月30日に山口県知事より宇部・山陽小野田消防組合の設置許可を受け一部事務組合を設立しました。



組合議会の様子



交通事故対応訓練 H25. 2. 28

組合設置後は、平成24年2月に第1回宇部・山陽小野田消防組合議会定例会を開催し、平成24年度組合予算や各条例制定など所要の準備を行い、同年4月1日に宇部・山陽小野田消防局を設置し、消防事務の共同処理を開始しました。

広域化の効果

当地区の広域化の効果としては、主に次のようなものがあります。

1. 活動上の効果

- ①市境付近への現場到着時間の短縮が図られる。
- ②火災時の一次出動車両数を増強することができた。
- ③指揮隊を設置し、効果的な部隊運用が図られた。
- ④救急車の効率的な運用が可能となった。
- ⑤宇部市消防本部が、山口大学医学部附属病院先進救急医療センター（宇部市在地）の協力で運用していたドクターカーの出動エリアが、広域化により両消防本部の管轄地域に拡大されたため、救命率向上が図られる。

2. 組織、人事上効果

- ①本部を一元化することにより、現場活動要員の増強が図られた。
- ②機械器具の整備などは単市で行うよりも、より有効的な配備が行え、経費負担も軽減される。
- ③高機能消防指令センター及び消防救急無線デジタル化の一元化整備により設備の効率化及び経費の軽減が図られる。
- ④消防の広域化に伴う必要経費に対して、財政支援措置が受けられる。
- ⑤計画的かつ充実した職員研修派遣が可能となった。

現在の取組

広域化の効果を早期に実現するため、平成24年10

月に「宇部・山陽小野田消防局実行計画（H24-26年度の3カ年）を策定し、事務事業の目標を定め、その実現に向けて取り組んでいます。主なものを紹介すると、

1. 現場到着時間の短縮

市境界付近について3分短縮の目標を掲げ、出動区域の見直しや暫定的に近隣の署所から同時出動させるなど検証を行い、平成26年度に整備する高機能消防指令センターの運用開始にあわせ実現することとしています。

2. 高機能消防指令センター及び消防救急無線デジタル化事業

現在、2つの指令センター（旧消防本部）で運用している指令業務を統一するため、両事業の実施設計を終え、平成24年度から事業着手し、平成26年度の運用開始を予定しています。

3. 人材育成の強化

多数の定年退職者を迎える現状から、優秀な職員の確保や、若年層職員への知識、技術の伝承など人材育成を進めることが急務なため、採用計画や研修計画を策定し、計画的に取り組むこととしています。

他にも火災予防の推進や救急需要対策の推進などの事務事業についても、目標達成に向けて取り組んでいます。

おわりに

当消防局も広域化から1年が経ちましたが、旧消防本部がお互いに単独消防であったため、組合消防の運営ノウハウがなく試行錯誤の連続で、今後も事務執行を円滑に行っていくために創意工夫が必要となっています。

しかしながら、広域化の効果も少しずつ現れており、その手応えを感じています。

これからも、さらなる「安心・安全なまちづくり」を進め、住民に広域化して良かったと言ってもらえる消防を目指し、職員一丸となって職務に精励していきます。